



—学校・保護者・地域とともに子どもたちの未来を創造する—

教育委員会だより

「住むんだったら」「学んだったら」「教えるんだったら」つがる市がいい！

第14号

令和7年9月

つがる市教育委員会

発行に寄せて

すべての人が認め合える社会へ

つがる市教育委員会
教育長職務代理人 平田 昌子 委員



世界は今、混沌としています。自然災害、気候変動、戦争など、様々な問題を抱えています。そうした中であっても、私たちが住むつがる市は、災害も少なく食べ物も豊富で、先人たちが築き上げてきた文化も存在し、人々の心も豊かです。この恵まれた環境にいることに深く感謝しています。

近年は、パソコンやスマートフォンの普及により、SNS での会話しかできない人たち、スマホが友達で家の中に閉じこもっていても大丈夫だと考える人たちが増えてきました。夜中でも世界中の人たちと会話ができるのは便利ですが、一方で危険性もはらんでいます。ICT 機器が何もない時代、私たちは対面で言葉を交わし、互いの表情を見てコミュニケーションをとってきました。その中で、相手を信じられるかどうかを判断してきたはずですが、しかし今、私たちは機器や他人に頼ることが多くなり、何かにつまずけば、他人のせい、機器のせい、政治のせいにして、自分は蚊帳の外だと考え、自分にも責任があることを忘れてしまっています。

私は長く幼児教育に携わってきました。まだ言葉を話せない赤ちゃんでも、人の気持ちはわかります。悲しい、楽しい、怒っている、不快であるなど、言葉を話せない赤ちゃんの思いを受け止め、言葉にしてあげて、私は大切にしてきました。赤ちゃんが泣く時には、何か理由があります。「お腹が空いたね」「ここが痛かったんだね」「おむつが気持ち悪かったね」と、言葉にしてあげると、赤ちゃんは自分が認められたと感じ、人を信じること、人を認めることを学びます。否定的な言葉の繰り返しは、不安にさせ、人を信じることができなくなってしまいます。

情報過多の時代、子どもたちは何を信じて自分なりの考えや意見をもてば良いのか、思い迷うこともあるでしょう。しかし、周りの大人が会話や活動を通して子どもの気持ちを察し、良いところを見つけ、褒めることで、様々な情報の中から自分で考え、自信と責任を持てるようになると思います。たとえ間違った意見であっても受け入れ、自分で考えさせ、判断させることで、他人のせいにするのではなく、自分の意見に責任を持てる人になれるはずです。

私たち人間は五感を持った、考えることを得意とする存在です。幼い頃からの多様な体験と人とのコミュニケーションが五感を育て、他者を認め、自らの考えで判断していく力を培うものと信じています。子どもたちには、SNS やマスコミに惑わされることなく、自己の責任と判断で力強く生きていってほしいと願っています。そのような力を育むためにも、まず大人が変わること、すべての人が認め合える社会を目指すことが大事だと思います。

詳細版は WEB でも閲覧できます

= 詳細版の掲載内容 =

- 教育委員 発行に寄せて
- 躍動！子どもたちの馬市まつり パレードのようす
- スクールサポーター紹介

※スマホ、タブレット等から御覧いただけます



躍動！子どもたちの馬市まつり

8月31日(日)つがる市馬市まつりのパレードに市内小・中学校が団体参加。
それぞれに趣向をこらしたパフォーマンスを披露しました。
躍動感のある各校のパレードの様子を写真でお届けします！

向陽小学校



稲垣小学校



稲垣中学校



穂波小学校



木造中学校



柏小学校



柏中学校



瑞穂小学校



森田中学校



森田小学校



車力中学校



※車力小学校は都合により参加できませんでした

スクールサポーター ～子どもたちの成長を支える現場から～



瑞穂小学校スクールサポーター
清野かすみさん・吉岡千尋さん・番場淳子さん

スクールサポーターは、学校の先生と連携し、個別の支援を必要とする児童生徒に対して学習の手助けや日常生活の介助を行う学校の職員です。子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、きめ細やかなサポートを行う頼りになる存在です。全小・中学校に合わせて31名が配置されています。今回は、瑞穂小学校スクールサポーターの皆さんのお仕事に対する思いをお伝えします。

○この仕事でやりがいを感じるのはどんな時ですか？ (番場淳子)

苦手なことや、難しいと感じていることに対して挑戦している姿を見た時や、できないことができるようになった成長を感じた時、いいなあと思います。

(吉岡千尋)

小さな成長や、春と比べてできることが増えた、などの子どもたちの「できた」瞬間に立ち会えることや、ほんの少しでも力になれることです。特に、問題を解けた、なわとびの目標を達成した、体育の苦手なところをクリアしたなどは頑張っていた過程も知っているので、一緒になって喜べます。

(清野かすみ)

入学してから6年間関わることが多く、一緒に過ごしてきたクラスの男児に卒業近くなった時、「俺らのスクールサポーターが、清野先生で本当によかった。」と言われた時、涙が出るほどうれしかったです。一生忘れられない一言になりました。この仕事をしていて良かったと感じた瞬間でした。

○この仕事で難しさを感じるのはどんな時ですか？

(番場淳子)

つい手をかけたり口をはさんでしまいそうになることです。少し時間がかかっても自分でできることで成功体験が増えて自信が持てるように見守り、待つようにしたいと思います。

(吉岡千尋)

支援を必要としている子ども一人ひとりにスクールサポーターが一貫して同じ支援をすることです。「この人は〇〇はいいって言ったのに、こっちの人はだめって言った」などの混乱がないように休憩中には「今日、こんな事があってこんな風に対応したけど……」などよく話しています。

(清野かすみ)

色々な問題に直面し、その都度対応はするのだが本当にそれで良かったのか悩む毎日です。しかし、そんな時は同じスクールサポーターの同僚に話したり、職員室で先生方に聞いてもらったりすることで、スッキリしたり安心感を得たりしています。

○先生方との連携で心がけていることはありますか？

(番場淳子)

子どもの様子で気づいたことやいつもと違う姿があればすぐ伝えるようにしています。

(吉岡千尋)

子どもへの支援はどこまで求められているのかは必ず確認します。成長の機会を奪ってしまったり、子どもが頼りすぎて何もなくなるなどがないようにです。気になる言動や、支援の方法に悩んだら、担任の先生にすぐに話すようにしています。

(清野かすみ)

先生に、求められていることは何か、常に考え、どうしたらいいか困った時は、必ず先生に聞くようにしています。自分の勝手な判断で支援しないよう心がけています。

○スクールサポーターを目指す方や、この仕事に興味を持っている方へ、メッセージをお願いします。

(番場淳子)

いつもおもしろい発見があり楽しいです。また仕事と子育ての両立がしやすいので、子を持つ働くママ世代にとっても良い環境だと思います。

(吉岡千尋)

学校には堅苦しいイメージしかなく、「学校で働く私」を想像できませんでしたが、いざ働いてみると、こんなに明るく、楽しいものなのかと本当にびっくりしました。小さい子どもがいる方は子どもとの時間を合わせられ、触れ合う時間をしっかり確保できるのも学校で働くメリットだと思います。

(清野かすみ)

子どもたちの成長を間近で見ることができ、とても楽しく日々新鮮でやりがいのあるお仕事です。子どもと接することが好きな人にもおすすめです。また、夏休み・冬休みの長期の休みや土日のお休みも働くママ世代にぴったりだと思いますので就職や転職をお考えの方は、検討してみたいかがでしょうか。



スクールサポーターのみなさんが全校児童・先生の夢を集めて制作した大型掲示「夢の廊下」の前で